

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300456		
法人名	社会福祉法人 伊勢湾福祉会		
事業所名	グループホーム マリンの家		
所在地	三重県鈴鹿市中旭が丘1-11-8		
自己評価作成日	平成24年9月1日	評価結果市町提出日	平成24年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyouvoCd=2470300456-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 24 年 9 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかで平凡ながらも 安全で楽しい毎日を送っていただけるよう努力しています。地域の方々に支えられ 防災体制も少しずつ強固になりつつあります。今年度は 自治会の防災訓練を当グループホームを主体に実施していただきました。また初の試みとして、地元小学校のワークキャンプの受け入れ実施、恒例となった夏祭りの参加等 4月から着任された新自治会長の協力を仰ぎつつ ますます地域の一員としてとけ込んで行けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人が母体にある事で連携・協力体制が取れており、職員は安心して支援に取り組む事が出来る。食事は法人本部からの配食であり、医療の面では法人協力医を主治医と定め、24時間の医療管理の契約を結んでいる。身体拘束委員会や給食委員会等、法人全体の会議の場で問題点を協議・検討する事が出来、支援に繋げる事が出来る。地域との連携も自治会の協力を得ながら、防災訓練や夏祭り、ワークキャンプの受け入れ等、地域に溶け込むよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『共に生きる』～絆を結んで 心開いて～グループホームという小さなコミュニティではあるが その中でどの様に支援していけば本人らしく暮らして行けるか？サービスの基本に立ち返る為の職員の指標としている。	玄関と職員ルームに理念を掲げ、職員は再認識しながら支援している。利用者が職員や地域と共に生きる、を支援に踏まえて日頃のケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地域の集まりに2階多目的室を開放、提供している。また隣接のデイサービスにてボランティア訪問がある時には 一緒に参加し交流をもっている。	地域の防災訓練の場所に事業所を提供したり、事業所の多目的室を地域の打ち合わせ場所に提供している。夏祭りの参加や小学校のワークキャンプの受入れを行い、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症があっても 適切な支援があれば普通に皆と変わらない生活が可能であるということ を 外出先や交流を通じて 地域の人々に感じてもらえるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より新しい自治会長が着任された。かねてより課題の自治会での防災訓練も実現し、また会議においても 違った視点での意見を頂くなどマンネリに陥りがちなサービスを見直すよい機会となっている。	防災に関する課題が多い中、避難場所への安全な近道を会議の場で教えてもらったり、利用者の外出場所にどこがよいか等、提案してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域連合には運営推進会議の報告書提出等 事業所の活動内容を伝えている。また特別な事案があった時には その都度現況や結果報告を行うようにしている。運営推進会議への出席も要請し予定されている。	広域連合には毎月、利用者の利用状況を報告に行く機会もある。また、年1回開催される広域連合主催のグループホームの集団指導に参加し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人本部に身体拘束委員会が組織され 当事業所からも委員として参加している。委員会の結果は持ち帰り次第 職員全員に報告、周知されている。	日頃の支援の中で気づいた時に、職員同士で検討しあう機会をつくっている。法人本部で行う身体拘束委員会に委員を参加させ、検討内容を職員に報告し認識してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や現場でその都度 虐待についての話し合いや協議の場をもち 自覚と知識の研鑽に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に該当者がなく 個人の意識に委ねられている程度である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはそれぞれの項目について 読み合わせを行い 質問があれば受け、理解を得ながら進めている。今年度介護報酬改定の際も 全家族に説明、了承を得た。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度 家族会を開き 意見、要望を伺う機会を設けている。また面会時に伺う事も多く、話しやすい環境作りに努めている。運営推進会議においても家族会、利用者代表に出席を願い意見を頂いている。	2ヶ月に1回家族会を開き、意見や要望を聞く機会を設けたり、面会時にも家族が意見や要望を言いやすいように支援している。利用者に菓子づくりをさせて欲しい、外出の機会を増やして欲しい等の意見を聞く事ができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1~2回 全体ミーティングを行っている。法人の理事長が同席することもあり 活発に意見や提案を出し合っている。	全体ミーティングや朝の申し送りの場で職員の意見を聞く事が出来る。法人理事長が参加する機会もあり、カラオケの機械を購入して欲しいと職員から要望があり、支援に繋げる事が出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の理事長が 年に数回 個人と直接面談を行い 個別に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は 職員それぞれがスキルアップの為 名古屋で行われた介護研修会「生活リハビリ講座」に交代で参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内にある もう1つのグループホームとの間で情報の交換を行っている程度である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の表情やしぐさに注意し、声掛けや傾聴に心掛けている。本人の意思を尊重しながら 安心して暮らして行ける環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安がそのまま利用者に伝わってしまう事もあり得るので 不安な点、要望を細かく伺い報告・話し合いを行う事でより良い関係を作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の特性から環境の変化に伴うリスクを理解し 本人の不安をまず取り除けるよう努力している。急に大きく変わるのでなく 直前に利用していたデイを訪問するなど 徐々に慣れていけるような配慮を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は同じテーブルで全員一緒にしている。利用者の出来る事に応じて家事も分担し合い 支えあいながら生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時、またはお便りで日常や健康状態の報告を行っている。本人には常に家族の存在が身近に感じられるような工夫を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を取り巻く環境も それぞれ高齢化や過疎化で変わってしまい なかなか馴染みの人、場所に繋がる機会が減ってきているが、昔から変わらないお店や町並みには出かけて行くことがある。	利用者が高齢化している為、知人や友人との関わりを繋げていくのが難しくなっているが、住んでいた地域に出掛けて行き町並みを見たり、馴染みの店に寄ったりして思い出話に耽ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者が丁度良い距離感で生活できるよう努めている。関わりが苦手な方には職員が間に入り 孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居や入院等で退居された後も機会があれば訪問し なにか困りごとがあれば相談にのったり出来る限りフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか思いや希望を伺う事が困難な場合は 会議等で職員らが気づいたしぐさ 表情反応を出し合い、繋ぎ合わせながら 本人本位の支援に近づくよう検討している。	絵の好きな利用者にぬりえを提供する等本人の意向に沿うような支援をする中で、職員間では申し送りやミーティング、連絡ノート等で利用者の思いの気づいた事を共有しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から 入居までの生活歴や趣味 嗜好について伺っている。入居前に利用していたサービスについても情報の提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ好まれる一日の過ごし方は 大体決まっている。体調や状態に変化がないか注意深く見守りながらサポートしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では個別にケア会議を行い 課題やプランの見直しについて話合っている。家族には面会時 主治医には24時間を通じて相談やアドバイスを求め 現状に即した介護計画を作成できるよう努力している。	ケア会議の場で職員の意見を聞くことができ、計画書の書式を変える事で家族が解り易くなり、意見や要望が言いやすくなった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記入された記録や処遇は 全員目を通し情報を共有している。発言通りに記入する事もあり その時の状況が推し量り易い工夫もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は地域に在住する家族の強い思いを受け 地域密着サービスの枠を越え特例として広域連合と連携し、遠方からの受け入れを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前に本人が通っていたデイサービスには時折訪問し知人との関係を保っている。また近所のコンビニやパン屋 スーパーに買い物に行き 小さい子や居合わせた人との交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を伺っている。現在は全員 法人協力医を主治医と定め、24時間医療管理の契約を結んでいる。職員はその契約に基づき健康管理の支援を行っている。	法人協力医を主治医とし、24時間医療管理の契約を結ぶ事で24時間対応の支援が出来る。週一回の往診の他、受診の支援もやっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが 24時間を通じて主治医と連絡が取れるようになっている。直接報告 相談できることで適切かつ迅速な指示が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は 安心して療養が出来るよう 必要な情報を提供している。面会には頻会に訪れ、病棟 医療相談員からは 病状の経過等の情報をもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在も残された課題である。重度化や終末期の支援について 早急なガイドライン策定の必要性 また家族会からも要望を受けているが 未だ策定には至っていない。個別の事情に合わせて出来る支援を行っているのが現状である。	看護師がいない現状から、医療行為が必要となった場合の対応の難しさもあり、重度化や終末期の方針が出来ていないが、医療連携の確保が出来れば早急に検討していきたい方針である。	医療面での連携を大事にし、利用者・家族が安心して暮らせるよう見取り指針・ガイドラインを作り、事業所としての方針を明確にして頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルに基づき対応している。応急手当の対応訓練は実施されていない。机上での勉強は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した訓練を実施。また 自治会の防災訓練が、今夏、当建物で行われ地域防災の第一歩を踏み出したところである。次回は冬に実施される予定。	年2回、併設するデイサービスと合同で地震・火災を想定した避難訓練を実施している。グループホーム独自の夜間想定(職員一人体制)訓練も実施すると共に、施設を利用した自治会の防災訓練を行い、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれが 人生の大先輩であるという事を念頭におき接している。人格の尊重やプライバシーの保護には出来る限りの工夫と配慮を行っている。	排泄や入浴、着替え等の介助時や受診時の健康面でのプライバシーの確保等に配慮している。居室に入るときの声かけや利用者への言葉かけにも人格を損ねない配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の中には自分で思いや希望を表すことが困難な方も多いが、表情やしぐさ、ちょっとした変化を見逃がさず望む生活に近づけるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は好まれる日中の過ごし方はだいたい決まっている。そのペースに合わせ支援していくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアの美容師に来てもらい希望の髪形にカットしてもらっている。衣類は家族に好みの洋服を準備してもらい、それぞれ選んで着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人本部からの配食になっているので作る機会はないが食後の後片付けは一緒にしている。おやつ等は皆で好きなものを作っている。	毎月給食委員会に参加して、利用者の要望を伝えることが出来る。音楽を流して雰囲気作りをしたり、職員も共にテーブルを囲み会話をしながら食事を楽しんでいる。	法人本部からの配食になってることで、利用者が作るという意味での楽しみが得られない。食事は利用者の楽しみの一つでもある為に、外食や出前等も利用しながら楽しみに繋げて欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎食記録し 把握している。栄養バランスは法人管理栄養士に委ねている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアを呼びかけ行っている。夜間は義歯を預かり 清潔にしたものを翌朝お返ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、時間を見て声掛け、案内することで ほぼ全員が日中 布パンツで過ごしている。	排泄チェックシートで排泄パターンを把握し、しぐさや表情を見ながら時間で排泄を促している。そうする事で日中はパンツで過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝手作りヨーグルトを提供し、腹部マッサージや 一日を通しての水分摂取の促し等 安易に薬に頼らない自然な排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調のよい方に声を掛け 希望があれば入浴していただいている。時間帯については より安全な入浴の為 職員体制の手厚い時間帯でお願いしている。	週2日以上は入浴できるように支援している。入浴の順番で希望を聞くことができたり、ゆずやしょうぶを入れて季節感を出す等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者は自由にリビングと自室を行き来している。午睡をされたり ソファでくつろいだりそれぞれである。寝具は清潔に保ち気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬は薬剤情報や主治医の指導のもと把握に努めている。服薬は間違いのないよう二重のチェックを行い、種類や用法が変わった時は 特に気をつけながら 気になる所は主治医に相談 報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の誕生日には皆でお祝いし ゲームなどで楽しんでいる。入居者は女性が多く 家事を手伝っていただく事で役割を持ち 張りのある生活を送ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には近所への散歩、買い物程度だが 季節の行事として 花見 盆踊り 紅葉祭り見物 餅つきなどに 皆で出かけている。盆踊りでは自治会の方々の協力を毎年得ている。	日常的には庭に出てお茶を飲んだり、近所を散歩したり、近くのスーパーへ買い物に出掛けている。職員が用事で出掛けるときに、利用者に乗せてドライブ気分に出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は了承を得て お預かりしているが 買い物に出かけた際には 自らレジを通り支払いをしてもらう等の配慮をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を家族にされる事はあるが 手紙の希望はなく行っていない。年賀状を送る程度である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は温度・湿度・明るさ等、職員によって快適に過ごせるよう調整されている。また壁には外出や行事の楽しかった思い出写真を貼ってあったり、皆で協力して作った作品が飾ってある。	フロアは広く、ゆったり過ごせる空間になっている。外出や行事の様子を写真にして壁に貼ったり、家族が面会時に持って来てくれる花を飾って季節を感じてもらえるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内には、1人用 数人用とゆっくり座れる場所が、いくつか用意されている。そこで気分に合わせて自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にレイアウトは家族や本人にまかせている。思い思いの家具や調度品が持ち込まれ、それぞれ好みの部屋となっている。	エアコンとカーテンは備え付けになっているが、ベッドや家具、小物は使い慣れたものを持ち込み、それぞれが自分らしく居心地の良い居室に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用のスペースにはわかり易いように 場所を示した札を掲げている。またホーム内どこからでも説明 案内し易い位置に配置されている。		